

## 世田谷村日記

石山修武

九月二十五日

十時研究室。何も出来ない間に日々が流れているような不安に包まれる事がある。マ、不安は不安として危機感に育てながら、やってゆくしか無い。研究室の民族雑居状態を足が地についたモノにしてゆかねばならんだろう。十一時中国の国内移民の居住を調査してきた陸海の報告を聞く。山口勝弘電腦ギャラリー「金閣寺」書く。十三時教室会議。入江主任体制となる。主任にもつと力を集中させる体制にしなくてはダメだ。小さい学科なのだから十五時教授会。大学内の政治ゴロみみたいなのが大学そのものをダメにしている。

九月二十六日

珍しく六時前起床。建築のエスキススケッチしようと思つて起きたのだがペンを持つて紙の前に身構えたら、全く手が動かない。描くものが無いわけではないのだけれど、どうやらこんな時は言葉で思考した方が良いのだ。スケッチは無意識の不自由さの内に自由そのものである意識（方法）を発見する手段なのが最近解つてきた。今朝の頭・手の状態は言葉向きだなと考えて、山口勝弘電腦ギャラリーの金閣を書き継ぎ始める。早朝の光が差し込み始める世田谷村の食堂でこんな時は何より楽しい。地震が連続している。不安定な大地にもともと揺れながら暮らしている民族だけ、我々は。昨日、工作社の山本伊吾さんより「夏彦の影法師」送つ

ていただいた。手帳50冊の置土産の副題がある通り、山本夏彦の日記、手帳の、息子さんによる公開である。山本夏彦さんを知っている人間にはこれ程面白いモノは無い。知らない人にも面白いであろう。頭が乗って、十一時迄山口勝弘電腦ギャラリー書いた。無駄が一番面白い。他にメ原稿沢山あるのにナア。今朝の地震は北海道のマグニチュード8の大きな地震だったのが解る。十勝のヘレンケラー塔は無事か。十四時研究室配島工業社長。中国へ行っていたらしく、中国の建材の余りの安価振りに仰天する。日本の建設価格の根底を揺する事になってゆくかも知れない。中国に木製品は無理だと思つていたが、原材をロシアから輸入して、それを加工しているらしい。進行中の朝山邸の総工費に関して話し合い。なんとかしてもらおう事になった。十六時半、中国より李祖原到着。やっぱり主が増えると思つて研究室は活気づく。九州の忍田さんよりメールとFAX入る。段々、最適解に近付いている。二十三時世田谷村。

九月二十七日

九時銀花世田谷村取材。十二時半まで。明日は久し振りの松崎行、沼津にケガで入院中の藤井晴正の見舞にも行きたい。十五時設計製図公開講評会。二〇時半終了。二十二時より打合わせ二十三時終了。翌〇時十分世田谷村に戻る。オフクロが来て自分の部屋で寝ていた。明日は又、説教されるんだろう。